

北海道コンサドーレ札幌の現状分析

～データから導くサッカー(2022)～

札幌旭丘 班名:サッカーミラシラ:木戸陽 佐藤花菜 本間柊吾 中野真矢 川崎智陽

※これに使われるデータはすべて2022年のJ1リーグのものとする

概要 J1リーグ2022年の北海道コンサドーレ札幌のシュート成功率、ボール支配率、失点数、失点パターンなどのデータを考察し、勝利するためにはシュート成功率を上げたり、ペナルティーエリア内の守備の強化が必要だとわかった

テーマ設定の理由

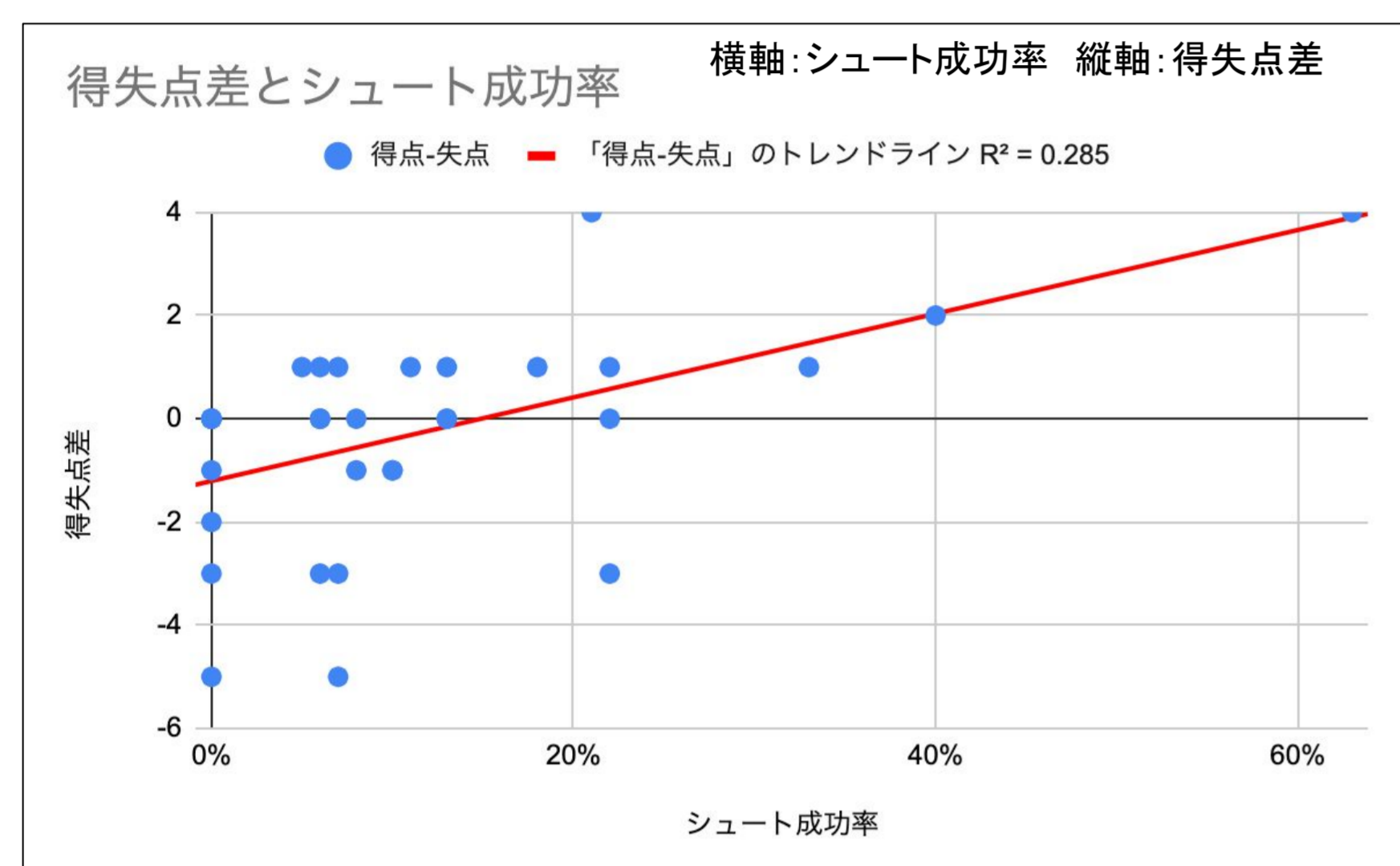
北海道コンサドーレ札幌のJ1リーグの順位が2020年12位、2021年10位、2022年10位、2023年12位と伸び悩んでいるから

仮説

仮説1:シュート成功率とボール支配率は得点と関係性がある
仮説2:コンサが今後順位を上げるためには守備の連携の向上が必要
仮説3:シュート成功率、ボール支配率が多いほうが、勝つ



検証1 シュート成功率は試合の勝敗に影響するのか



◎シュート成功率
⇒ゴール数÷シュート数。
◎攻撃回数
⇒ボールを保持してから相手チームに渡る、もしくはファウルやボールアウトで試合が止まるまでの間を一回の攻撃。
◎チャンス構築率
⇒シュート数÷攻撃回数。

シュート成功率と得失点差の分布を見ると、正の相関があることが分かる

シュート成功率が高いほど勝率が高い

～1位2位3位との比較(2022)～ 1位:横浜Fマリノス 2位:川崎フロンターレ 3位:サンフレッチェ広島

	攻撃回数	シュート	チャンス構築率	ゴール	シュート成功率
コンサドーレ札幌	117.5 (8位)	13.5 (4位)	11.5% (5位)	1.3 (7位)	9.8% (10位)
横浜Fマリノス	124.9 (1位)	16.2 (1位)	13.0% (1位)	2.0 (1位)	12.5% (2位)
川崎フロンターレ	113.8 (14位)	12.8 (7位)	11.2% (7位)	1.9 (2位)	14.5% (1位)
サンフレッチェ広島	123.0 (2位)	14.7 (2位)	12.0% (3位)	1.5 (3位)	10.2% (7位)

シュート数は4位と高いがシュート成功率が10位と低いのでゴール数も低くなっていると考えられる

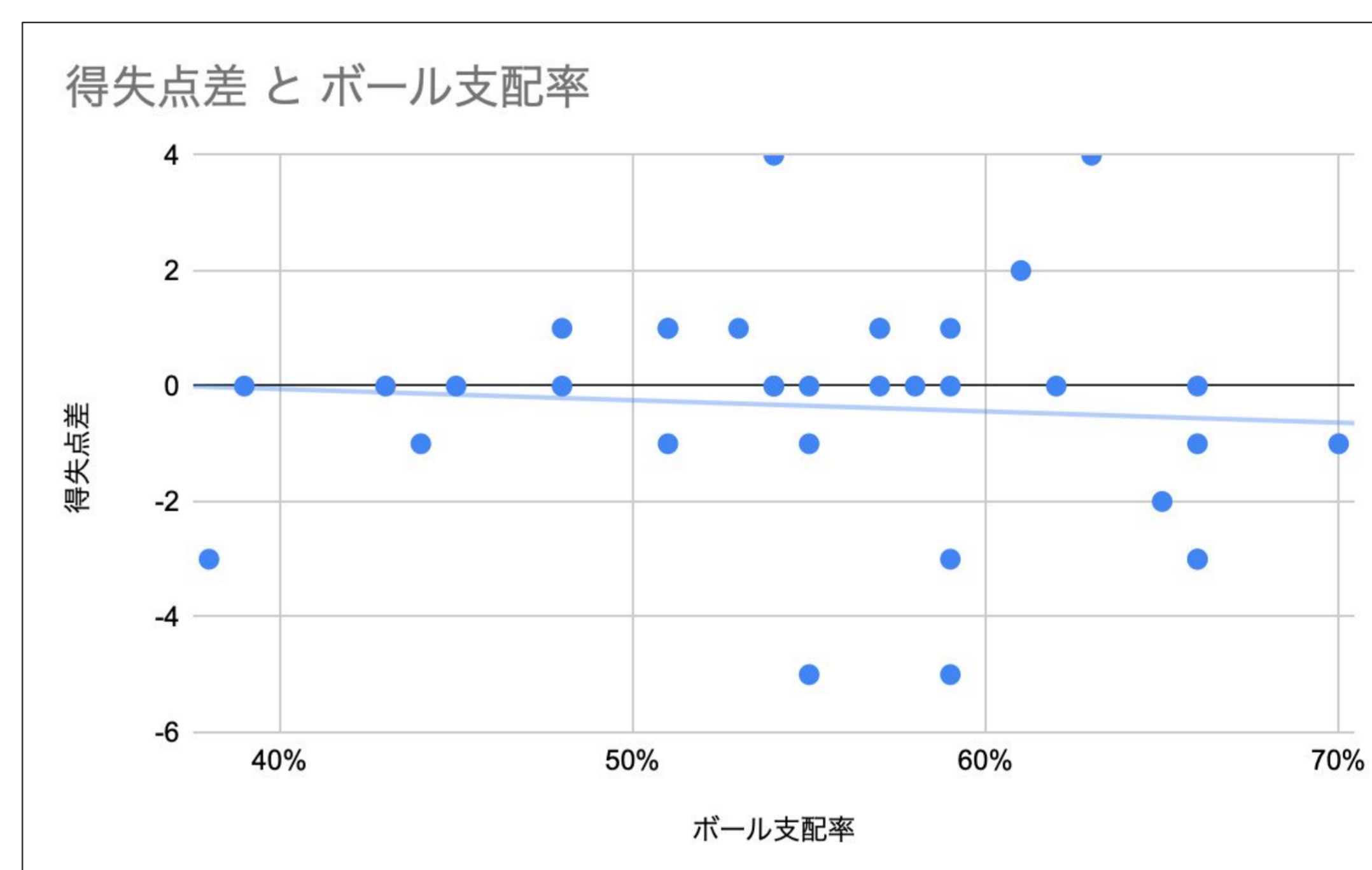
シュート成功率を上げた方がいい

ボール支配率は試合の勝敗に影響するのか

	コンサドーレ札幌	横浜Fマリノス	川崎フロンターレ	FC東京
ボール支配率と順位	54.1% (4位)	57.9% (1位)	55.6% (2位)	54.2% (3位)
2022J1リーグ順位	12位	1位	2位	6位

以上から**ボール支配率が高いほど試合に勝てる**と考えられる

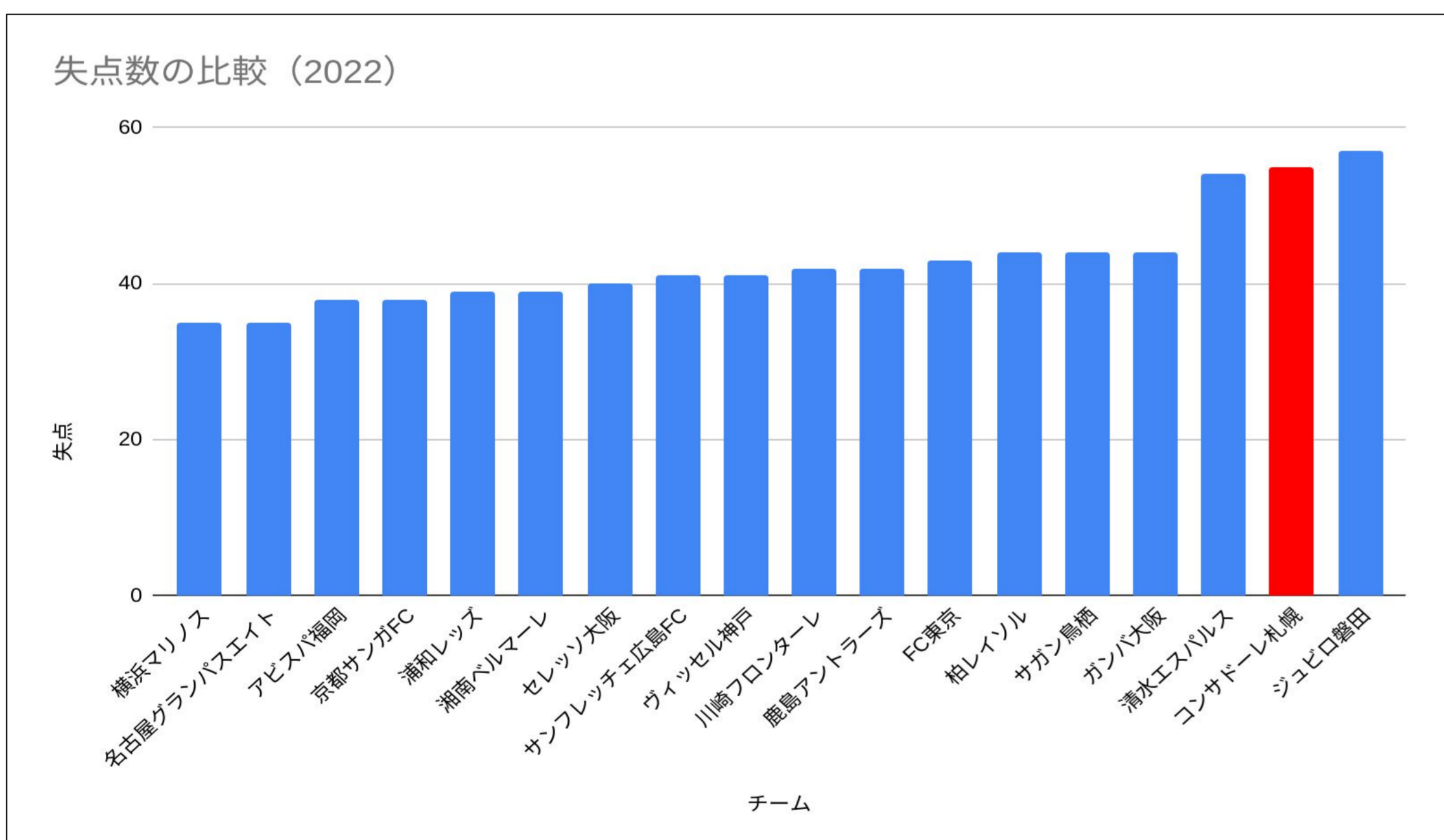
コンサドーレの得失点差とボール支配率



図からボール支配率と得失点差には相関がないことがわかる。よって支配率の他に敗因があると考えられる。

カウンターを多く受けているのではないか

検証2 コンサは失点数が多いのだろうか



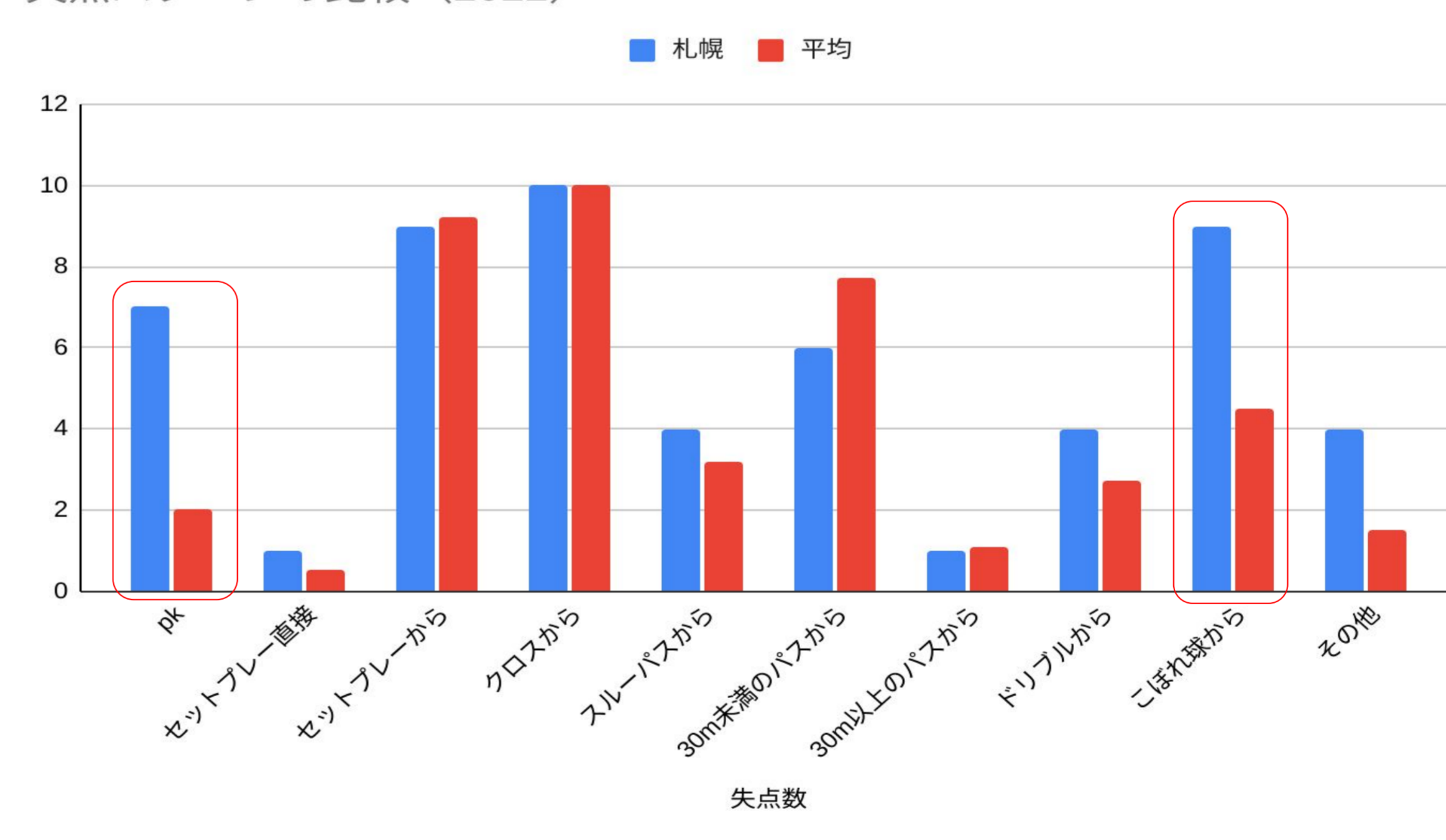
2022年度J1リーグにおける失点数をまとめたグラフである。コンサドーレの失点数は55であり、全18チームの中で2番目に多い結果となっている。

⇒コンサドーレは他チームに比べ失点数が多い

J1リーグ2022年1,2,3位の失点数
1位:横浜FM 35点 2位:川崎 42点 3位:広島 41点 17位:コンサドーレ 55点

強いチームは失点数が少ない

失点パターンの比較 (2022)



特に、「PK」、「こぼれ球から」の失点が平均よりも多いことが分かる。

ペナルティーエリア内の守備の強化が必要

・PK
PKが直接ゴールインした失点
・セットプレー直接
フリーキック、コーナーキックが直接ゴールインした失点
・セットプレーから
上記を除き、セットプレー後10秒以内にゴールインした失点。
・クロスから
セットプレーを除いたクロスからの失点
・スルーパスから
スルーパスからの失点
・30m未満のパスから
セットプレー、クロス、スルーパスを除いた30m未満のパスからの失点
・30m以上のパスから
セットプレー、クロス、スルーパスを除いた30m以上のパスからの失点
・ドリブルから
得点者自らがドリブルからシュートを打ちゴールインした失点。得点者の前のプレーがクロス、スルーパス、パスであっても、こちらで計算
・こぼれ球から
得点者がこぼれ球を拾いゴールインした失点。こぼれ球とはポストバーの跳ね返りやクリア、ブロックなどを拾った場合を対象とする
・その他
上記項目以外の失点

結果・考察

検証1では、勝率を上げるには、シュート成功率を上げる必要があることがわかった。また、ボール支配率が高いほど試合に勝てることがわかったが、コンサドーレのボール支配率と得失点差には相関がなく、カウンターを多く受けているのではないかと考察した。検証2では、③コンサドーレは他チームに比べ失点数が多いことがわかった。更に、失点パターンを比較すると、「PK」「こぼれ球」からの失点数が多いことがわかり、結果、コンサドーレが勝つためには守備陣の強化、特にペナルティーエリア内での守備の強化が必要だと分析した。